

## デマンド交通実証運行の検証方法イメージ（案）

## 大室線エリア

評価の視点	評価項目	区域運行方式 (実証運行)	定時定路線方式 (通常運行)	評価	
サービス提供の視点 (運行目的に応じたサービスが提供されているか)	運行便数/日	5.2 便 ※7便まで運行可能	5 便	A	最大7便まで運行可能だが、結果的に通常運行と同程度
	停留所	57か所	55か所	B	停留所は利用者ニーズの高い2か所を増設
	所要時間/便	片道30分	片道54分	A	片道平均24分短縮
	走行キロ/便	片道13.0km	片道23.5km	A	片道平均10.5km短縮
	予約	あり	なし	B	電話予約が必要になり、利用者に負担が発生
	運賃	100円	100円	A	運賃は据え置き
利用実態からの視点	利用者数 (80日間)	1,200人	1,076人	A	利用者数が11.5%増加 高頻度の往復利用者が多い
	収支率	10.0%	7.4%	B	2.6pt増加したが、委託料算出方法見直しが必要
	利用者の満足度	7割以上の利用者は、区域運行方式の方が良いと回答		A	項目別では、停留所、所要時間の満足度が特に高い。
	将来の利用意向	9割以上の利用者は、区域運行を本格導入後も継続利用すると回答		A	区域運行を本格導入しても、継続利用が期待できる。
	今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用車両の小型化（ワゴン）</li> <li>・停留所を医療機関付近に新設</li> </ul>		—	—